

平成25年度  
第58回 長野県中学校連合教科研究会

# 音楽科

目次

I 研究テーマ	2
II 趣旨	2
III 参加校テーマ一覧と参加者名、指導者名	2～3
IV 研究問題と協議内容	3～7
V 本年度の研究の反省と来年度の方向	7～8
VI あとがき	8

## I 研究テーマ

「生徒自ら音楽活動の楽しさを体験し、生涯にわたって音楽を愛好する心情を育てる支援はどうあったらよいか」 ～表現及び鑑賞の幅広い活動における〔共通事項〕の指導～

## II 趣旨

音楽科の学習指導要領ではつける力が〔共通事項〕として明確に示され、各題材で指導する〔共通事項〕をどのように指導していくかの研究が求められている。同じ題材でもどのように教材化し展開するかという視点で、各校・各先生方の研究実践から学び合い考えていきたい。生徒の実態と照らし合わせた教材研究、題材展開、そこから見られた生徒の学びの姿の考察を明確にしていくことで、自ら音楽活動の楽しさを体験し、生涯にわたって音楽を愛好する心情を育てる支援のあり方が見えてくるものと考えている。

## III 参加校テーマ一覧と参加者名、指導者名

### 【第1分科会】

指導者	東信教育事務所指導主事	西澤 真一 先生
司会者	長野市立川中島中学校教諭	竹腰 益臣 先生
記録者	飯田市立飯田東中学校教諭	石田 雄太 先生
世話係	信州大学教育学部附属長野中学校教諭	稲垣 典子 先生

堀 金 中：個や全体の願いを生かして音楽表現をするための技能や知識を身につけ、歌唱表現ができる生徒の育成	松嵜 光彦
筑 北 中：表現したい思いをもち、歌詞と音楽記号を関連させながら、自分たちの歌唱表現を主体的に練り上げていく合唱指導の在り方	吉田 智樹
旭 町 中：音楽を形づくっている要素と、そこから生まれる雰囲気とのかかわりを感じ取ることを通して楽曲の良さを感じながら音楽活動する力を高める指導のあり方	高畑 真弓
東 部 中：音楽の要素の働きが生み出す雰囲気を感じながら歌唱表現を工夫する力を高めていく指導のあり方	飯田 佐和
更 北 中：作曲家の願いや工夫を読み取った演奏や鑑賞ができるための指導のあり方	丸山 貴弘
飯田東中：表現や鑑賞の既習事項と関連させながら音楽づくりを楽しめる創作授業のあり方	石田 雄太
川中島中：イメージを明確にしなが、まとまりのある音楽をつくるための指導のあり方	竹腰 益臣
附属長野中：曲のイメージと音楽を形づくっている要素とをかかわらせて表現する力を高める指導のあり方	稲垣 典子
青 木 中：レポートなし参加	山口 駿
旭 町 中：レポートなし参加	坪川 怜加
大 岡 中：レポートなし参加	渡邊 真利恵

### 【第2分科会】

指導者	中信教育事務所指導主事	臼井 学 先生
司会者	長野市立裾花中学校教諭	細川 淑子 先生
記録者	信州新町中学校教諭	福澤 早彩 先生
世話係	信州大学教育学部附属松本中学校教諭	安部 文江 先生

丸ノ内中：(音楽の学習を通じた) 友とのかかわり合いの中で課題を追求し、音楽を楽しむ心情と技能を育むことのできる音楽科の学習はどうあったらよいか —ペア学習やグループ学習の活用を通して—	鷺澤 幸毅
三 岳 中：イメージ・工夫を伝え合い、表現につなげる歌唱指導はどうあったらよいか	高橋 明日香
鉢 盛 中：合唱指導における、自分なりの感じと音楽を形づくっている要素とをかかわらせて、楽曲のよさを表現しようとする音楽指導のあり方について	高松 要
阿南第二中：基礎的な技能を身につけ、一人一人が曲に対して意見や考えを持ち、楽しみながら表現する能力を高める	今井 京
附属長野中：曲のイメージと音楽を形づくっている要素とをかかわらせて表現する力を高める指導の在り方	小池 智博
信州新町中：仲間とともに、ひとつの音楽をつくり上げることのできる生徒の育成	福澤 早彩
附属松本中：楽曲や友とのつながりを深めながら、感動を味わっていく音楽の学習	安部 文江
根 羽 中：レポートなし参加	野口 亜華音
櫻ヶ岡中：レポートなし参加	小川 沙也加

## IV 研究問題と協議内容

### 【第1分科会記録】

#### 討議題1 歌唱領域における実践事例

堀金中：個や全体の願いを生かして音楽表現をするための技能や知識を身につけ、歌唱表現ができる生徒の育成
筑北中：表現したい思いをもち、歌詞と音楽記号を関連させながら、自分たちの歌唱表現を主体的に練り上げていく合唱指導の在り方

#### ○歌唱領域における知覚と感受について

- ・ある曲で「素敵」だなんて思ってもどこからそう感じたのか明確にしていなかった。「知覚」と「感受」、「音楽の要素」と「雰囲気」の結びつきは明確にしたい。時間的に苦しいが自分たちで考えた表現や必要感がある表現は残る。教師が与えるだけでなく自分たちで考えることを大切にしたい。

#### ○歌唱と技能の関連について

- ・音程が取れなくても表現をしようとする生徒がいることを大切にしたい。発声できる範囲が狭いだけだからと歌うこと自体に自信をなくさせないような声掛けをしたり、練習の中で教師自体がしっかりと入って根気強く歌う支援をしていきその子を周りが認めたりすることで意欲も技能も伸びていく。

#### 【西澤先生のご指導】

- 「～な感じにしたい」という感受的な部分に対してどの技能(要素)を使えばよいのか明確にしたい。
- ・「強弱」「速度」の量的な変化を目的にしないで、それを通して何が表現されるかという質的な育ちが促されるような学習をしたい。
- 中学校では建前として技能が身に付いていることになっているが実際は難しい。子どもたちの技能の把握があつての題材展開。それが必要感につながっていく。音程感覚は身に付いていない生徒には「同じ音が出せるか」を意識させたい。同じ音をレスポンスするトレーニングで音程感覚を養いたい。
- 「主体的なグループ活動」の名の下に子ども達の学びがない場合がある。また良かれと思い、練習手順を細かく示したことが「ノルマ」になってしまい、終わった子ども達がそれ以上深めることが

ない。「追究した」でなく「活動した」になってしまうことには注意したい。教師のグループへの適切な指導や、全体で共有する時間を設けることがあるとよい。

### 討議題2 鑑賞領域における実践事例

旭町中：音楽を形づくっている要素と、そこから生まれる雰囲気とのかかわりを感じ取ることを通して楽曲の良さを感じながら音楽活動する力を高める指導のあり方
東部中：音楽の要素の働きが生み出す雰囲気を感じながら歌唱表現を工夫する力を高めていく指導のあり方
更北中：作曲家の願いや工夫を読み取った演奏や鑑賞ができるための指導のあり方

○興味を持って取り組めるような授業の工夫

- ・「魔王」では音楽劇など鑑賞だけでなく表現活動も入れていくと良い。日本語の音源の扱い方を考えたい。まずはドイツ語で分かる単語から物語を想像させてからなど必要感がある中で聴かせるとよい。

#### 【西澤先生のご指導】

○鑑賞の題材を組み立てるときに生徒にとってはもともと知らない曲、興味がない曲を教えるという前提から考えていきたい。鑑賞には様々な方法があり、「良い曲だから聴かせる」ではなくて、共通事項を支えにして、この曲を通して何が育ってほしいのかということを明確にしたい。また、鑑賞と鑑賞の間に表現を挟み込むことでより楽曲に対しての理解が深まっていく。さらには複数の曲を1つの題材として扱う際には〔共通事項〕を通してつながりがあるように配慮をしたい。

○「魔王」に関しては自分が「これだ」と思ったことをやるのが良い。生徒が批評しながら鑑賞することは、味わって聴くための手段である。価値を1つに限定しないでその子なりの価値を見つけたい。

### 討議題3 創作領域における実践事例

飯田東中：表現や鑑賞の既習事項と関連させながら音楽づくりを楽しめる創作授業のあり方
川中島中：イメージを明確にしながら、まとまりのある音楽をつくるための指導のあり方

○各学校での創作学習の様子

- ・ある旋律に対して、対旋律をつくるなど器楽との関連で行った。創作の評価の仕方としてB評価は正確に記譜できている状況、A評価は雰囲気と要素との関連が明確で正確に記譜ができる状態。
- ・創作では「こうでなくてはならない」ではなくて「これもいいね」「あれもいいね」と子どもがつくりだしたものを認めていくようにしたい。グループ編成は技能もあるが性格で分ける手もある。

○旋律創作の教材化

- ・「作曲は難しくないんだよ」と思ってもらいたい。小学校の音楽づくりの活動が大きなヒントになる。「問と答え」→「反復」→「変化」へ。生徒の実態で欲張らずにやりたい。

#### 【西澤先生のご指導】

○創作はつくれたことが目的ではなくて、つくることやつくったものを通して何を身につけさせるか。つくったものに対して自分で音のつなぎ方、終わり方、などを考えることでさらに工夫する力がつく。

○全員ができる創作の授業を考えたい。B評価を考えていく中で、条件の絞り込みは大切。その中で「つくれる＝楽しい」になるようにしていきたい。「やってみよう」と思わなければ生徒は動かない。

○全ての要素を創作単体でやるのは苦しい。他領域との関わりのなかで短時間にできるようにするとよい。例えば「反復」「変化」は別の領域で扱い、それを創作につなげていくようにする。

## 討議題 4 器楽領域における実践事例

附属長野中：曲のイメージと音楽を形づくっている要素とをかかわらせて表現する力を高める指導のあり方

### ○器楽領域の指導の実情

・演奏技能の習得に終始してしまって、思いや意図と音楽の要素を絡めながら学習させる場面に至らないことが多い。聴かせどころを伝え合うような活動ができるとうい。

### ○生の雅楽の演奏と代用楽器とワークシート（ひみつ解明シート）の活用

・代用楽器で雅楽らしい雰囲気が出せるが奏法を追究しないと本物に近づいていかない。そこで雅楽の特徴的な響き、奏法を探って体験することで雅楽独特の間に気付くことができる。器楽の学習ではその楽器の本質に迫りたい。

#### 【西澤先生のご指導】

○器楽は間違えるとすぐ分かる。実は合唱よりもハードルが高い。器楽の学習の構想として全員 B ができるように選曲をし、「～させる」ではなく「～できるようにする」というスタンスで授業づくりをしたい。表現の工夫にまで到達するには技能面ではクリアが余裕でできていることが条件。演奏技能にとらわれないような選曲をすること。また、技能をつける題材なのか、表現を追究する題材なのか明確にしていくこと。題材によっては音色だけで音程を伴わないものがあったてもよいのでは。

○技能を高めるために、リコーダー同士で教師が吹いたものを生徒とコール&レスポンスといったドリル学習を位置づけるとよい。また器楽は拍感を鍛える必要がある。間違えても戻れるようにしておく。

○タブレットは双方向ではない。授業の中で生徒が使いたいと求めているとそうは使わない。グループ活動でのタブレットの活用ができそう。タブレットの中に必要なものを入れて生徒に渡し、教師の代わりになってヒントを出すような使い方はできないだろうか。

（文責：飯田東中学校 石田 雄太）

## 【第2分科会記録】

### 討議題 1 音楽の基礎的な力をつけていく実践

阿南第二中	基礎的な技能を身につけ、一人一人が曲に対して意見や考えを持ち、楽しみながら表現する能力を高める
-------	---

○歌唱分野において、音が取れない生徒にどのような指導・支援をしていけば良いのか。

- ・楽譜が読める力をつけることが、音が取れることにつながる。
- ・音取りCDを積極的に作成・使用することが有効である。
- ・ボーカロイドなど生徒の興味を引くようなものを取り入れることも有効である。

#### <白井先生のご指導>

・「音が取れる」ようにするためには、視覚と聴覚の両方の情報を関連付けた支援を大切にしたい。聴覚のみに頼って（聞こえた音に合わせるばかりで）歌うと、斉唱ならば良いが、合唱になったときに「つられる」ということが起こってしまう。例えば音の高低を歌詞や線で書き表すなど、簡単な視覚情報を与えるところから始め、聴覚情報と視覚情報を結び付けていく活動を通して、「聞こえた音に合わせる」ところから、「自分で音を取る」能力へとシフトしていくことができる。

### 討議題 2 さまざまな学習展開において、友と関わり合いながら表現を工夫していく実践

丸ノ内中	（音楽の学習を通じた）友とのかかわり合いの中で課題を追求し、音楽を楽しむ心情と技能を育むことのできる音楽科の学習はどうあったらよいか —ペア学習やグループ学習の活用を通して—
------	---

附属長野中	曲のイメージと音楽を形づくっている要素とをかかわらせて表現する力を高める指導の在り方
-------	--

・ペア学習を取り入れることで、得意な生徒が苦手な生徒に教えるなど関わり合いが活発になり、積極的に活動できる生徒を増やすことができる。特に男女のペアを組むことは、学級の雰囲気作りにも繋がり、非常に有効である。

・時にはポップスを演奏するなど、生徒の興味を引くものを取り入れることも有効である。

#### <白井先生のご指導>

・教師が「器楽とはこういうものだ、〇〇とはこういうものだ」などのステレオタイプから抜け出し、思いつくさまざまなことをやってみることが大切である。

・生徒が自分でできることを設けたり、生徒が自発的に動く導入や活動にしたりするなど、「いかに自分が動かずに授業を進められるか」を考えて授業を構成してみることも有効である。

・テストを設けるなどの動機付けも、時には有効である。テストのためにやらざるを得ないなどの外的要因を、おもしろい、楽しいといった内的要因に結びつけていくことが大切である。

・授業で扱う内容について、教師自身が意味を明確に感じている必要がある。例えば、器楽の授業でリコーダーを扱う理由を説明できるだろうか。教師が学習する意味を明確に持っていない活動で生徒に必要感を感じさせることは難しい。

### 討議題3 思いや意図をもち、音楽の諸要素とかがかわらせながら表現を工夫していく実践

信州新町中	仲間とともに、ひとつの音楽をつくり上げることのできる生徒の育成
三岳中	イメージ・工夫を伝え合い、表現につなげる歌唱指導はどうあったらよいか
鉢盛中	合唱指導における、自分なりの感じと音楽を形づくっている要素とをかかわらせて、楽曲のよさを表現しようとする音楽指導のあり方について

・表現を工夫する際にはまず試し、体験させることが大切である。

・要素に関する知識の基本（強弱は強さなのか大きさなのか、など）を教えることも大切である。

#### <白井先生のご指導>

・まず、表現の授業なのか技能の授業なのか、教師がはっきりと定めていなければならない。

・表現の工夫の授業では、生徒の技能が大きく影響しないように仕組むことも大切にしたい。例えば、生徒が考えた表現の工夫を教師が演奏してあげる、強弱をつけずに一本調子で歌ったものを録音し、再生機のボリュームつまみを回しながら再生して強弱を考える、など。そして、表現の工夫の仕方が定まってきたら、それではそのように演奏してみよう、と声を掛けて技能の授業へ繋げていくことができる。

・例えば「強弱を変えると効果があるのだ」という意識がないうちに「強弱を工夫しよう」と言っても難しい。要素の働きを体感し、要素を操作することに意味があるのだと感ぜられる体験（感受を絡めた体験）が必要である。

・「技能が不十分なうちは工夫の授業に入れない」と考えず、「工夫しているうちに技能もついてくる」ように考えていくと良い。

・感受の仕方には正解がなく人それぞれだが、要素の知覚には正解がある。クラス合唱など、最終的に表現の仕方を1つにまとめた時は、生徒それぞれの感受から入るよりも、要素の知覚から入るという方法もある。

・生徒がいろいろな表現の仕方を提案して全体がまとまらない場合は、楽譜に立ち返る。「再現の音楽」では、何でも人それぞれ自由に表現して良いというものではない。求められている表現をもとに、作曲者がなぜそのように指示したのかを考えることは有効である。これは個人の感受や考え方に起因するものなので、人それぞれで良い。

- ・教師自身が自然に考えつくことのないような複雑な工夫の仕方を生徒に考えさせようとしない。

#### 討議題4 表現領域と鑑賞領域を関わらせて追究を深めていく実践

附属松本中	楽曲や友とのつながりを深めながら、感動を味わっていく音楽の学習
-------	---------------------------------

- ・表現と鑑賞を結びつけた実践をしている授業は少ない。

##### <臼井先生のご指導>

・創作と鑑賞は密接に関わっている。創作をする前に見本となる演奏を鑑賞すると、鑑賞により分析し、創作により構築することができる。分析のポイントと構築のポイントを同じにしておくと非常に有効に関わらせることができる。これが〔共通事項〕における「音楽を形づくっている要素」のしぼり込みであり、教材化のカギである。

(文責：信州新町中学校 福澤 早彩)

## V 本年度の反省と来年度の方向

### ◎ 本年度の反省

項 目	内 容
○本年度の研究テーマについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容を限定せず、さまざまな研究が行えるテーマなのでよい。</li> <li>・「生涯にわたって音楽を愛好する心情」というのが、とても難しいと感じています。また、内容が〔共通事項〕に寄れば、寄るほど手が出しにくくなるような気がするので、サブテーマをはずしてもよいのではないか。</li> <li>・学習指導要領が改訂されて数年、確かな学力を付けることが重要視されてきたと思います。そこを堅実にねらいながらも、やはり芸術教科としての、音楽の楽しさや魅力を伝えていくことはとても大切なことだと思います。</li> </ul>
○研究の主な内容と研究の成果について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い内容から明日の実践に生かせるような充実した内容が多くあり、学ばせていただいた。</li> <li>・多くの先生方の意見を聞けるだけでも十分な成果だと思います。</li> <li>・先生方からのアドバイスを基に、これから研究していきたいと思います。とても勉強になりました。</li> </ul>
○研究の方法や経過について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参考になりました。</li> <li>・要素とのかかわり、知覚と感受について、成果が次の学習や他の領域にも生かせることを感じました。</li> <li>・レポートなしの参加の先生方も、充実した1日を過ごせたようです。</li> </ul>
○研究会当日の運営について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレハブ対応でしたが、普通教室と同じように運営することができました。</li> <li>・細やかな配慮ありがたかったです。</li> <li>・一人一人の発表時間が長いと思った。司会計画を立てる際、一人あたりの発表時間も明確にし、時間配分に気をつけたい。</li> </ul>
○研究集録等の Web ページ掲載について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よい。</li> </ul>
○本年度運営全般について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートを事前に読みたい。そうすることにより、より研究討議の内容が深まると思います。</li> <li>・今年は、司会計画がアップされませんでした。自分が何番目の発表なの</li> </ul>

	かなど分からなかった。
--	-------------

◎来年度の方向

○来年度の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの領域や分野からでも実践発表できるようなテーマであり、必要な内容が盛り込まれているので、来年度も今年度と同じく「生徒自ら音楽活動の楽しさを体験し、生涯にわたって音楽を愛好する心情を育てる支援はどうあったらよいか」としたい。ただし、サブテーマははずす方向で。</li> </ul>
○来年度の研究の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここ数年、創作分野や鑑賞領域を扱ったレポートの実践が増えてきていてとてもよい。歌唱分野に偏ることなく、幅広い活動の実践から、研究テーマに迫れるようにしていきたい。</li> <li>・音楽活動全体に関わるテーマでよい。</li> </ul>
○来年度の研究の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコンやDVDや生徒の学習カードなど、生徒の姿が分かるような発表が多くよかった。来年度も生徒の姿から学び合えるような研究会にしていきたい。</li> </ul>
○その他、改善したい点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なかなか、参加者が集まらなかった。レポートなしの参加も認められているので、多くの先生方に呼びかけをしたい。</li> <li>・参加にあたっては、当該校の校長先生、教科主任の先生の了解のもとでお願いしたい。</li> <li>・レポート発表だけでなく、ワークショップ的な内容、模擬授業や、楽器体験などの内容も盛り込んでみてはどうか。</li> </ul>

## VI あとがき

お忙しい時期に、県下各地から、20校、21名の先生方にお集まりいただき、日々の授業実践をもとに生徒の学ぶ様子を通して、指導のあり方を熱心に討議していただき、本年も多大な成果を収めることができました。

事前から、会の進め方、討議題の内容等、懇切丁寧にご指導いただきながら、一つ一つのレポートに対してご示唆をいただいた、長野県教育委員会東信教育事務所指導主事 西澤真一先生、中信教育事務所指導主事 臼井学先生には心から感謝申し上げます。また、綿密な司会計画を立てていただき、討議を深めてくださった司会の竹腰益臣先生、細川淑子先生、当日の記録及び研究集録のまとめに多くの時間を割いてご尽力いただきました記録の石田雄太先生、福澤早彩先生、心より感謝申し上げます。そして、お忙しい中、日々の実践をレポートにまとめ、熱心に協議に参加され、研究会を実りあるものにしてくださった参会の先生方、本当にありがとうございました。

来年度の研究会にも、ぜひ、たくさんの先生方のご参加をいただき、有意義な研究会になりますことを祈念申し上げ、まとめとさせていただきます。

音楽科委員長 稲垣 典子  
副委員長 安部 文江